KAN

環

摘草
2015
第 18 号

千曲川地域の人と文化

NPO法人上田図書館倶楽部　　2015 年 4 月

摘草

桜の季節を迎え快い日差しの中にかすむ山並は農村特有の光景を作り出す。畑の起伏は生活している人々の辛抱強さを象徴しているかのよう。付近の古民家風の建物は四季の変化に物怖じしない形でドッシリと居座っている。
信州国際音楽村高台から南面の展望、躍動の季節が始まった。

表紙写真・文　矢幡正夫

contents

4　信濃の美術館を歩く ---------- 海野　郁
池波正太郎真田太平記館　～池波作品の魅力にふれる～

9　知られざる日本古代史①　**海人族安曇族と古代日本列島**
---------- 酒井春人

12 地域に根ざすＮＰＯ紹介　**アイダオ** ---------- 西入幸代

14 観点 ---------- 岡田基幸
全国から入学希望者が集まる　**秋田の国際教養大学**

16 セカンドライフを楽しむ ---------- 伊藤文子
未知の世界にチャレンジ　**片桐眞次郎さん**

20 ぶらり散策　**琵琶滝如来** ---------- 萌

22 あとがき

～池波作品の魅力にふれる～

池波正太郎真田太平記館

信濃の美術館を歩く

平成26年5月、平成28年のNHK大河ドラマに「真田丸」放映が決定。長年、上田市民らが情熱を傾けて奔走、待ちに待った知らせだ。以来、市をあげてのお祝いムード。上田駅前を始めとして街のあちこちに幟旗がはためき、関連イベントが目白押しである。

開館17年目の池波正太郎真田太平記館にも、放映決定お礼のはり紙がされていた。蚕室造りをイメージした建物は白壁が映え、上田の街にしっくりと溶け込む。

館設立の準備段階からかかわり、館長を務めた後は指導員として来館者を迎える土屋郁子さん。池波文学をこよなく愛する土屋さんにお話を伺った。

Q　開館のいきさつなどをお聞かせくださいますか。また、作品名が冠された記念館はめずらしいのではないでしょうか。

A　真田一族に魅せられた池波先生は、上田の地を幾度となく訪れています。そこで、先生と親交のあったみなさんから、上田市に記念館を建てたいとの要望が持ち上がりました。その頃、台東区でも記念館を建てる計画が進められていましたが、『真田太平記』の資料は、池波家から上田市に寄託していただけることになったのです。それを受けて上田市は、平成10年に作家と作品名のついた「池波正太郎真田太平記館」を開館いたしました。また、池波先生の生れ育った台東区には、平成13年に「池波正太郎記念文庫」が開館しています。

貴重な資料が並ぶ常設展示室

Q　そういういきさつがあったのですね。建物も素敵ですが、設計はどちらが手掛けたのですか。また、蔵が2棟ありますが移築されたものでしょうか。

A　美術館建設などで定評ある丹青社の設計で、美しい展示、見やすい空間になっています。この場所にはきしめん屋さんがあり、中庭の2棟の蔵はもともと並んで建っていましたが、館建設にあたって1棟を後ろに移動しています。

Q　館内部や展示はどのようになっていますか。

A　2階の常設展示室は、「真田太平記コーナー」と「池波正太郎コーナー」にわかれていて、みなさん一番興味を示されますね。真田太平記コーナーでは、真田太平記年表や登場人物の紹介、自筆の創作ノートや作品の舞台見取り図など、池波正太郎コーナーでは遺愛品や原稿、年賀状、自筆画、書斎の風景写真などを展示しています。1階の企画展示室では、3月28日(土)から5月24日(日)まで、企画展「第一次上田合戦～真田と徳川の攻防～」展を開催し、順次NHK大河ドラマ「真田丸」

放映に向けての企画を計画しています。館内には、他に忍者の路・「忍忍洞」や、シアター、ギャラリーなどがあり、見所いっぱいです。時間をかけてゆっくり見ていただきたいですね。

Q　池波先生が真田一族に興味を持たれたきっかけはなんだったのでしょうか。

A　池波先生は、文学の師である長谷川伸先生の書庫の本を全部読まれ、その中の『松代町史』に興味を持ち、そこから材を得て真田氏の物語を書かれました。この時の図書貸出帳を見た長谷川先生は、池波先生が真田氏の物語を書こうとしていることを見抜かれたそうです。池波先生の時代小説の初作品は、『恩田木工』（後に『真田騒動』と改題）、その数年後に書かれた『錯乱』で直木賞を受賞など、いわゆる〔真田もの〕作品20点余を相次いで発表されました。その〔真田もの〕の集大成とされるのが、『真田太平記』なんですね。

蔵（ギャラリーとシアター）

Q　その池波文学の魅力についてお話いただけますか。

A　2階の展示室にある創作ノートや取材ファイルにみられるように、池波先生は実際に現地を歩いて綿密に取材されていて、その場に立つことで登場人物の心理をも描きだしており、読み手にリアルな場面と感情を伝えています。そういったところに読者は惹かれるのではないでしょうか。人気シリーズ『鬼平犯科帳』『剣客商売』『仕掛人 藤枝梅安』の3大シリーズでも、犯科帳などの古文書からヒントを得ていますし、江戸切絵図を参考にして登場場所の設定をしています。取材地はエッセイにも書かれていて、後追いで読者を楽しませていると思います。

Q　大河ドラマ「真田丸」放映

が決まって、ますます池波作品が読まれ、関心を持たれるでしょうね。来館者に変化はありますか。

A　発表以来増加していますね。年齢層も幅広く、子どもたちもよく「真田氏」を調べて来館してくれたりするのでうれしいですね。

Q　今後の企画展の内容はどのようになっていますか。

A　先ほど少しお話しましたが、3月から始まる「第一次上田合戦」、次の「第二次上田合戦と関ヶ原合戦」、次いで「九度山から大坂の陣」と企画展を予定しております。多くのみなさんにお越しいただきたいですね。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

インタビュー後、あらためて館内をめぐる。2階常設展示室の創作ノートやファイルなどからは、土屋さんのお話にあった作家の取材姿勢が窺える。

池波正太郎コーナーでは在りし日の作家の姿が偲ばれ、ヨーロッパを訪れた際の趣深い自筆画に、別の一面を見る。池波ファンはもちろん、初心者でも充分に楽しむことができる展示風景だ。

1階に降りて、企画展示室から忍忍洞にまわる。暗さに戸惑っているとからくりボックスが動きだし、忍びの物語が始まる。子どもたちが喜びそうな仕掛けだ。

そこから外に出ると、シアターとギャラリーの2棟の蔵が建つ。シアターでは、『上田攻め』『真田太平記の世界』などを上映、『真田太平記』入門にもおすすめである。ギャラリーは、風間完の『真田太平記』挿絵原画が展示された空間だ。

時間をかけて鑑賞した後は、交流サロンでゆっくりと過ごすのがおすすめ。明るく開放的なサロン

土屋郁子さん（交流サロンにて）

には、池波作品の書籍が多数並ぶ。喫茶ル・パスタンの美味しいコーヒーを味わいながら、池波文学の魅力に浸る。そんな光景が、春の訪れと共に増えていくことだろう。

平成27年2月9日訪問

海野　郁

池波正太郎真田太平記館
開館時間：午前10時から午後6時まで
（入館は午後5時30分まで）
休館日：水曜日・祝日の翌日・年末年始
入館料：大人３００円　高・大校生２００円
小・中学生１００円
〒386-0012
長野県上田市中央3-7-3　TEL.0268-28-7100

お花畑に歓迎を受けて散策する人々、楽しく語り合う姿は穏やかに包み込まれ明るく輝いて見える。春が満ちている広場では駆け回る子供たちの賑やかな声が一段と高まり山間に響き渡っている。
「信州国際音楽村お花畑」

おもしろWeb

もうすぐ始まる「マイナンバー」をご存知ですか

http://www.gov-online.go.jp/tokusyu/mynumber/

10 月からマイナンバー（個人番号）の通知が送られてきます。行政手続きをするときにはこのマイナンバーが必要になるそうです。マイナンバーとはどういうものか、どんなことに気をつけたらよいか、政府広報のページを見て確認しておきましょう。

知られざる日本古代史①

海人族安曇族と古代日本列島

酒井春人

玄界灘に浮かぶ安曇族の本拠地志賀島

安曇族は海人族

いきなりで恐縮だが、「安曇族」をご存知だろうか。長野県の安曇野を古代に拓いた海人族の人たちが安曇族ということを、どこかで聞いたことがあおりかと思う。

安曇族は、海人族であるにも拘わらず、海から遠く離れた山国信州に入り込んで、開拓に精を出したという説を唱えたのは、民俗学者で知られる宮本常一である。

海から陸へ上がった海人族の行為を指して、彼は「海人族の陸上がり」という仮説を古代史研究界に投げかけた。

海人族というのは、操船を得意とし、海に潜って魚介類を採ることに長けた人々の集団とでも訳していいだろう。つまり、海が彼らの生きる生活圏である。その海人の人たちが、なぜ海を捨て、陸に上がって農耕を始めたのか、この命題を深く掘り下げて考察しようと試みた学者や専門家は、これまでそう多くはない。古代史の大家が言った説を裏付けるなり、検証しようという試みは、つい最近までなされてこなかった。

したがって、今でも多くの方々は、安曇野を開拓したのは安曇族だと信じている。

実際、安曇野の中心に位置する穂高神社には、海人族の祖神とされる綿津見神とその子穂高見神が祀られている。こんな山国になぜ海神が、ましてや穂高神社の奥宮は、日本第三位の標高を誇る奥穂高岳の頂上に祀られている。

ところが、この「海人族の陸上がり説」に真っ向から疑義を唱えたのが、在野の古代史研究家亀山勝である。彼は、その著『安曇族

と徐福』で、圧倒的な説得力をもって「海人族の陸上がり説」を否定し、概説するならば次の三点を新たに提起した。

①安曇族は海人族であるから陸に上がって農耕民に転化はしていない。

②安曇族は中国大陸や朝鮮半島の農耕民、技術者集団を船で日本に運び込み、彼らの生活の面倒を見ながら、彼らに農耕や技術開発の生活をさせることに奔走した。

③安曇族は、中国大陸や朝鮮半島と日本とを結ぶ交易の民となった。

以上、この三点から、安曇族は日本の弥生時代を切り拓いた海人族であるという結論を導き出している。つまり、海に囲まれた日本列島で、人間が技術革新を始め時代の発達を遂げるためには、列島外から船で海を渡って来なければならない。

縄文時代も、おそらく東南アジアから船で黒潮に乗ってたどり着いた漂流民たちによって始まったと考えられる。

もっと具体的に言うならば、長野県安曇野には、安曇族が船を駆使して連れてきた中国大陸の農民や技術者たちが入植して、開墾生活を始めたと言ってよいだろう。

したがって安曇族である海人族が、海を捨て農民に転化したわけではない。彼らは大陸や半島と日本との架け橋役を担ったのである。そして彼らは世話した農民や技術者たちが生産した品物を大陸や半島で売り捌き、また大陸などの品物を日本に運び込んで、日本の発展に寄与した。

弥生時代が、縄文時代とはっきり区別されるのは、稲作と製鉄、それに養蚕などが行われるようになった点である。

狩猟・採集文化である縄文時代から定住を元とした稲作農耕文化への転換を成し遂げた、その原動力を担った人々、それこそが海人族であった。そして現在の日本人のルーツは、この海人族の末裔であると言えるのではないだろうか。

中国江南の呉国の人々が安曇族

それでは、その海人族である安曇族はどこから、いつこの日本列島にやってきたのだろうか。

現在、弥生時代の開始年代はさまざまな論があって、ここから始まったと断定することはなかなか難しい。それは国立歴史民俗博

安曇族の本拠地志賀島にある
綿津見三神を祀る志賀海神社

物館（千葉県佐倉市）が、放射性炭素年代測定法と呼ぶ自然科学的な方法を用いて測定した結果、稲作は紀元前十世紀（今から三〇〇〇年まで）まで遡れると言いだしたことにより、それまでの紀元前五世紀ころから始まったとする説が揺らぎはじめているからである。

しかし、稲作技術が日本列島に確たる根拠をもって広範囲に持ち込まれるのは、紀元前五世紀ころ、中国長江（揚子江）流域の江南地方からと言われている。この場合、稲作というのは現在私たちが食べているお米、水稲を指し、「おかぼ」と呼ぶ陸稲ではない。

すると、紀元前五世紀頃の江南地域は、どんな状況であったのだろうか。

当時の中国は、いわゆる春秋戦国時代と呼ばれており、江南流域には呉・越・楚の三国が鼎立（ていりつ）していた時代であった。

紀元前四七三年、呉は越に敗れる。呉は海人族としてその名が知られていた。越に敗れた呉の人々は、得意の船を操って、大海にその活路を求める。かくして難民となった呉国の人々は、対馬海流に乗って日本列島は九州の北部へとやってきたのである。この人々を私たちは安曇族と呼んでいる。

福岡市の博多湾に浮かぶ志賀島（しかのしま）はその呉の人々、つまり安曇族が最初に上陸した地であり、その後、日本全国に展開する安曇族の活動の拠点となった島である。現在は海の中道と呼ぶ砂州から道路になった道が通っているが、かつては博多湾に浮かぶ小さな島であった。

この島の入口には現在志賀海神社が鎮座しているが、この祭神は綿津見三神（表津・仲津・底津）の海神である。

今回は、安曇族入門のほんの入口のお話をした。次回は、安曇族をもっと理解していただくために、かれらが日本列島に展開して何をなしたかをご紹介しよう。

酒井春人　1949年　長野市生まれ　早稲田大学第一文学部卒
1993年　龍鳳書房を設立　現在代表取締役

地域に根ざす NPO 紹介

NPO 法人アイダオ

どういう目的の NPO 法人ですか？

「社会と人とＮＰＯのアイダをつなぐ」ことです。行政と連携しながら東信エリア 100 以上の NPO 法人をネットワークします。経営支援や資金調達のアドバイスをおこない、NPO 法人と企業、地域との連携を推し進める中間支援組織です。

具体的にどういうことをしているのですか？

第一に、既存の NPO 法人に対してファンドレイジング（資金調達）方法の導入をお手伝いしています。「BOOK TO THE FUTURE」は中古書籍を寄付してもらい、買い取り金額を NPO 法人に寄付する仕組みです。書き損じハガキを寄付してもらって切手を現金化して NPO 法人に寄付する「ハガキフ」という仕組みや、「寄付自販機」の設置という方法もあります。

次に NPO 法人への経営コンサルティングです。そのために地域のさまざまな NPO 法人や企業がどのような思いから活動や経営をしているか調査して、リサーチ結果をウェブ上で公開します。それによって優れた経営ノウハウやリソースを共有し全体のレベルアップを実現します。

また、NPO 法人の創業支援や助成金獲得のためのお手伝いとして企画書作成相談、コンサルタントの紹介などをします。

さらに、「信州ファンドレイジングサミット」や、NPO 法人が活動発表する「TALK & TALK」などのイベントも開催し、NPO 法人への理解と寄付文化醸成を目指しています。

誰にどういうことを伝えたいですか？

まず、企業のみなさまへ伝えたいことは、社会課題の解決に関わっていただき、寄付を通して社会貢献活動に参画していただきたいということです。物資・資金のみならず支援の想いを NPO 法人に継続的に届けていただくことにより、企業の地域貢献、社会活動のアピール、認知度や企業イメージのアップ、人材育成へのプラス効果、事業の活性化といった成果や変化が期待できます。
次に NPO 法人のみなさまへ伝えたいことは、アイダオのさまざまな支援を活用していただきたいということです。また、アイダオを情報発信ツールのひとつとして利用してください。
市民のみなさまには、NPO 法人へのご理解を深めていただきたいと思います。NPO 法人は、地域の抱える課題の多様化・深刻化、財政の制約等を背景に、行政が担いきれない社会課題の解決を担う存在です。中古本や書き損じハガキを提供していただくことでも NPO 法人の支援につながります。

基本情報

活動開始時期：2013 年２月
会員数：個人と法人あわせて 37
主な活動資金：会費と委託費など
職員数：５名
事務所：〒 386-1323 長野県上田市本郷 1524 － 1
ホームページ：http://aidao.jp/
理事長：長岡秀貴

NPO 法人アイダオ　コーディネーター
橋詰光太さんに平成 27 年２月 25 日取材

観点

全国から入学希望者が集まる
秋田の国際教養大学

秋田市郊外にある開学 10 年の公立の国際教養大学に訪問した。「英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力と豊かな教養、グローバルな専門知識を身に付けた実践力のある人材を養成し、国際社会と地域社会に貢献すること」を理念に掲げる。授業は英語で行われ、1 学年定員は約 180 名。場所は秋田駅から車で 40 分の秋田空港の傍で、大学と空港以外は田園風景が広がり、学生にとっては、勉学に集中できる環境だ。1 年次は全寮制で、2 年次からは大学近くのアパート住まいとなる。

卒業生の就職は引く手数多で、様々な業種業界で活躍している。昨年 11 月には「国際教養大学の学生はリクルートスーツを着用しない」と、企業に事前通達している。形式美よりも中身で勝負を仕掛けるのは立派だ。全国の大学学長からの教育面等での評価は、東京大学、京都大学等に次ぎ 4 位だ。全国の高校校長から、生徒に薦めたいや進学して伸びたなどの評価も高い。入学希望者が全国から殺到し、

24時間365日開館の大学図書館

入試難易度では東京有名私大にも肩を並べる。初代学長の故 中嶋嶺雄氏は松本深志高校の出身で、現在、構想中の長野県立大学についても様々な助言をされたと伺った。

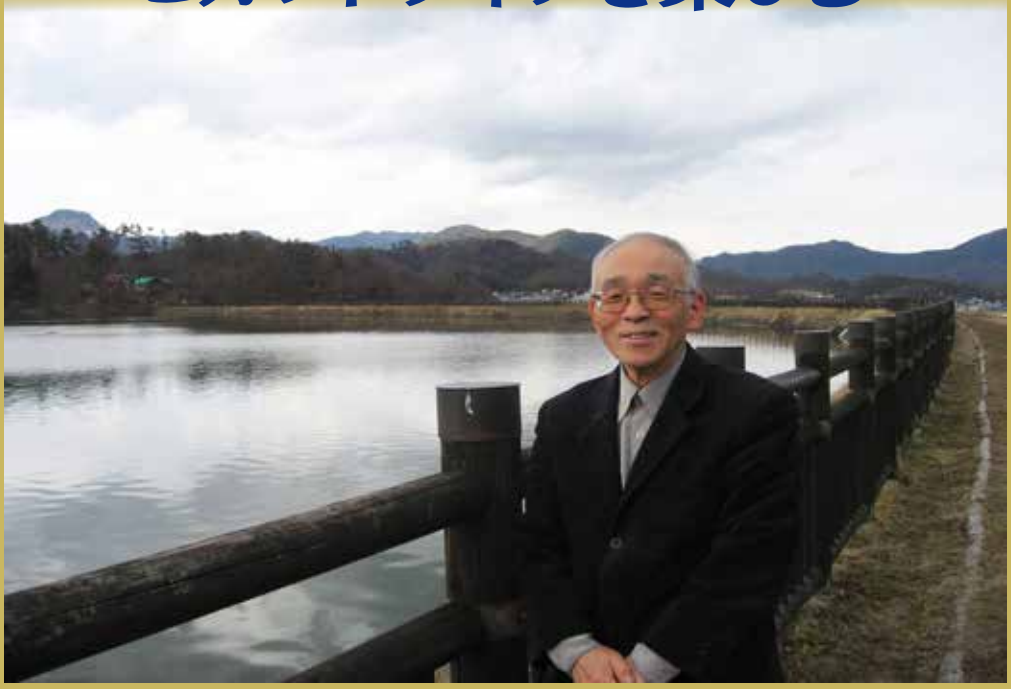
視察をして、一番に驚いたのは、学長、教員のみならず、事務員の意識も異様に高いということだ。学生からの様々な提案に教員や事務員が熱心に耳を傾け、さらに良き提案になるように内容をブラッシュアップしている。大学食堂のスタッフも、留学生との会話に困らぬように自主的に英会話のトレーニングやメニューの英語掲示の工夫もしている。ちなみに大学図書館は 24 時間 365 日開館。（写真）

卒業生の内定先企業

大学経営面では、秋田県が運営交付金として年間 10 億円を拠出しており、当初、県議会では、「県内出身学生が少ない。県内就職が少ない。」など、地域貢献度に対し様々な意見があったと伺った。しかし、今や、全国的な知名度が上がり、文部科学省のスーパーグローバル大学事業に採択になるなどの圧倒的な成果で、理解者、応援者が増えてきたとのこと。当地、上田市でも、長野大学の公立化を検討しているが、関係者には机上の議論だけではなく、ぜひとも秋田の現場を見に行ってもらいたい。「秋田でもできる！」に、大きな元気をいただいた。

一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター　専務理事
信州大学繊維学部　特任教授　工学博士　　岡田基幸

セカンドライフを楽しむ



未知の世界にチャレンジ　片桐眞次郎さん

「車で1時間の範囲は自分の庭」と、県内はもとより東北や北海道などへも気軽に出かける。また、「人とのコミュニケーションが私の財産」との思いを持ち、知人のみならず旅先で出会った人たちとの会話を楽しむ。上田市前山在住の片桐眞次郎さん（72歳）は、とにかくフットワークが軽い。以前、新年早々、新潟港からフェリーで苫小牧へ。そこから愛車で北海道一周の旅。「マイナス30度の気温を体感してみたかった」。好奇心旺盛である。あえて厳しい状況に飛び込んでいくバイタリティの源は？お住まいの近くにある「塩田の里交流館とっこ館」でお話を聞いた。

Q 先ほど頂いた名刺に「上田市西塩田地区振興会会長」とありました。どんなことをやってらっしゃる

のですか。

A ひとことで言えば地域の活性化です。降雨量の少ないこの塩田は、水田の灌漑用としてため池が100ほどあります。他地域と比べて非常に多いです。2010年に、「塩田平のため池群」が農林水産省の「ため池百選」のひとつに選ばれました。命の源である水田を潤してきたため池が、優れた景観を保ち、地域に親しまれているというのが理由です。そのため池の大切さを訴えて参りました。

「信州うえだ塩田平ため池フェスティバル」を2013年と2014年に開催しています。神聖な雨乞い行事の再現伝承も行いました。約200人が火のついた長さ3メートル位のたいまつを手に、一周800メートルの池を囲んで「雨降らせたんまいな」と唱えます。ため池を通して塩田の歴史や文化などを多くの人に知ってほしいと願っています。

また、地区内にある民話の里、鞍が淵を保存しようと、2006年に産川沿いの林道から淵までの約80メートルに手すりや階段を設けて、看板・遊歩道を整備しました。

ため池フェスティバル

Q 地域の立役者ですね。いろいろなジャンルの方々とのお付き合いがあるのでしょうね。

A そうですね。活動を通していろいろな方々に会えるのは嬉しいです。それぞれ異なった価値観をお持ちなので、学ぶことが実に多いです。ひとりで独鈷山を整備して下さっている方とも知り合いになれ、本当に感謝しております。

Q 片桐さんの人当たりの柔らかさに納得しました。ほかにどんな活動をされていますか。

A マルチメディア情報センターの利用者団体「メディア天の会」の会長を10年間務めさせても

らっています。

Q それはどんな会ですか。

A ２００５年にパソコンを学ぼうと有志10人で始めた会です。10人だったのでｔｅｎ、「天」の字を当てました。パソコンに触れ、そして学ぶ喜びを多くの皆さんと共有しています。現在50人位が一緒に学んでいて、３つのグループに分かれ月２回ずつのスケジュールを組んでます。また上田自由塾でパソコン教室の講師もやらせて頂き、かつ「上田地球を楽しむ会」にも所属しています。

Q ご活躍の幅が広いですね。「元気は自分が前向きに活動することによって生まれる」と聞いたことがありますが、片桐さんにお会いして、それを実感します。

次に、趣味についてお聞きしたいのですが、どんなことに興味をお持ちですか。

A わたしは食いしん坊でね。特にイタリアン料理が好きで、新しい店ができると必ず入ってみたくなります。どんな人がオーナーなのかな、どんな雰囲気かな、メニューはどうだろうか、など知りたくなります。それと仕事が建築関係だったものですから、全体の空間に興味があります。古く渋いレンガ造りの建物を見かけると、お腹が一杯でも入ってしまいます。その時入らないと、たぶんずっと入らないでしょう。その事を自分でわかっているものですから。

どこへ出かけても帰りは違う道を通るようにしておりますその途中で集落を見かけると寄りたくなりますね。此処はどういう処だろうか、どうしてこの様な処に住んでいるんだろうか、そこで話を聞いたりするのも面白くて。

ため池のひとつ　舌喰池

つい先日、19号線の御曹司橋から入って、かつての大岡村役場（現在長野市支所）の近くを通った時、こういう処の図書館はどうしてるだろうと考え、建物の中に入りました。入り口近くに、此処で利用されていた本が沢山ありました。欲しい本はご自由にお持ちくださいと書いてあったんです。念のためお聞きしたら「どうぞ、いいですよ」と言ってくれました。えーと嬉しかったですね。ついその中から2冊の本を頂いてきました。本は『信濃の伝説と観光　巻ノ1』と『山村の農業経営』です。

図書館巡りもいいですねぇ。本に囲まれながら館内のカフェでコーヒーを飲むなんて最高です。よく行く中軽井沢図書館も好きな図書館です。

Q 興味の対象が広くて驚くばかりです。旺盛な好奇心はどこから生まれるのでしょうか。真冬に青森県の竜飛崎先端、あるいは北海道へと行かれたそうですね。

A 北海道は夏に行くのが普通ですよね。何ていうか、自分を厳しい状況に置いてみたいんですね。地吹雪とはどんな状態なんだろう、真冬でも地図の道は走れるだろうか?って試してみたくなるんです。未体験のことに興味があるんですね。

Q バイタリティの源が少しわかったような気がします。好奇心を維持するには健康が基本だと思うのですが、体調管理はどのように?

A うちの奥さんと時々近くの自然を楽しみながらウォーキングをします。それとよく食べよく眠ることかな。わはは・・・元気じゃないと何もできませんからね。体力第一です。でも最近体力の低下を感じています。いい健康法があったら教えてください。

お話しを聞けば聞くほど、新しい引き出しが出てくる。好奇心は尽きることがない。そんな中で、片桐さんは時々自分の目線を見直す。「会長」とか「先生」とか呼ばれて、目線が高くなっていないか、少しでもそれを感じると下方修正する。そんな謙虚さが人を惹きつける魅力になっているに違いない。

平成27年2月9日訪問

伊藤文子

琵琶滝如来

国道 19 号線を犀川沿いに長野から松本方面に行くと、道の駅「信州新町」が見えてくる。ここでは特産のジンギスカン・麩・そば等が売られ、隣の食堂ではそばを食することもできる。そこから約 11km 行くと左手にさぎり荘という温泉が見え、その斜向かいを右折すると県道 393 号線で大町に抜ける。この道をわずか行くと右手に琵琶滝如来の案内板がみえ、奥の岸壁に白い仏様が見える。車はほとんど通らないので道路の脇に止めておいても大丈夫。長野市信州新町日原西祖室渓谷の「琵琶滝如来」である。

町出身の彫刻家宮尾応栄さんの作である。宮尾さんは太平洋戦争の時、南洋西カロリン諸島メレヨン島で米軍機の爆撃により戦傷を負い、日本に送還された。終戦後、同じ隊の仲間が餓死したことを知り心の痛み堪え難く、昭和 53 年、70 歳を機に慰霊の為に琵琶滝横の岸壁に彫ったのが高さ 4 mの磨崖仏である。土地は町が取得・

琵琶滝如来案内板

提供し、５年間に亘る作業の足場は地元の建設会社が提供してくれた。その他数々地元の協力があった。

われわれが訪れたのは大寒中だった。午後2時ごろでも岸壁の氷柱は解けることなく、冬の日を浴びて光輝いていた。氷柱の影をお顔に映して、如来様の表情はそれはそれは鎮まり穏やかだった。案内板には散策道があるとなっていたが、前日の雪がくるぶしまで埋まるほどで、道も橋も歩ける状態ではなかった。雪が解けて芽吹きの頃もう一度訪れよう。

また、この地は「かあさんの歌」の発祥の地でもある。窪田聡氏が戦時中、信州新町に疎開していた時、学校卒業後の進路のことで母と意見が合わず、家を出て埼玉県に下宿した。その時に母から送られてきた荷物を開けてこの歌ができたという。　　（萌）

塩田の田園地帯では、まもなく田植えの季節を迎える。畦では雑草に先駆けてマーガレットが賑わう。

あとがき

上田図書館倶楽部では上田情報ライブラリーと共催で執筆編集講座を実施している。市民の仕事録や研究記録、趣味の記録などを地域の資料として蓄積するもので、昨年度までに６期終了し、計５６冊がライブラリーの書棚に並んだ。

Ａ５で約１００ページを半年間で仕上げる講座で、毎期５～１０人が参加する。受講生はまずテーマを決める。構想を練り項目を考える。自分を振り返りながら、また調べながら書き進めるが、途中スムーズにペンが進まないことがある。内容的に躊躇することもある。四苦八苦しながらの執筆だが、完成したときの喜びはひとしおだ。「いい経験になった」「自分の過去を振り返ることができた」完成後のアンケートにはこのような感想が多い。

図書館で執筆編集講座を実施することは大変意義のあることだと考えている。図書館にある本やデータベースを利用して執筆することは「書く」文化の向上につながる。自らの経験や研究を一冊の本にまとめるということは、「自らデザインし自ら学ぶ」生涯学習のモデルにもなる。

２月２０日付朝日新聞の「メディアラボはいま」で、聖学院大学長の姜 尚中さんが自分史について語っている。「戦後の日本が、遺産として次世代に何を残すのか。それはもしかしたら人々の自分史なのかもしれない。自分を語ることは『魂の相続』だと思う。相続というと物質的なイメージですが、次の世代に何を相続させていくべきかを考えると、自分史はとても良いものではないでしょうか」。

執筆編集講座は地域の資料としてだけでなく、『魂の相続』という遠大な流れの中にある。（木漏れ日）

KAN
環　千曲川地域の人と文化　　第 18 号　摘草
2015 年 4 月発行
NPO 法人上田図書館倶楽部
電話 /FAX　0268-25-3115　　info@zuku.jp

表紙及び文中の写真は無断使用を禁じます。

環スタッフ：伊藤文子　海野 郁　西入幸代
宮下明彦　望月聡子　矢幡正夫　吉池みどり